

次代のために前進しよう、創始の志を胸に

— Let Us Go Forth With Our Mission —

社団法人加古川青年会議所 理事長 前川 真一郎

スポーツの祭典に沸き立った、暑い、熱い夏が過ぎようとしています。私たちのまちからは、甲子園へ兵庫県立加古川北高等学校が出場し、オリンピックへ女子 3000 メートル障害に加古川市在住の早狩実紀選手が、女子ソフトボール日本代表チームに加古川市出身の乾絵美選手が出場しました。ご存じのとおり、女子ソフトボール、念願であった金メダルを取ることができました。同郷のものとして、そして日本人として、大変嬉しいことでもあります。そのような中、敗戦の将、米国キャンドレア監督の言葉が印象的でした。彼女は「日本には脱帽する。祝福したい。ベストなプレーをしたが、今夜は日本の方が上だった。細かいプレーは重要で、それを積み重ねることができなかった。負けることもある。それがスポーツだ」そう言われました。米国は、世界NO. 1として君臨してきただけに、国民からの期待も大きく、そのぶん失望も大きいでしょう。責任を問われることもあるかもしれません。そんな中、勝っても負けても相手のことを称える姿は、何か武士道精神のようなすがすがしさを感じます。本来、スポーツは、キャンドレア監督の言うとおりのものであると思います。オリンピックが、国家間の威信をかけた戦いとして激化する中、本当に大切なものとは何なのか、考えさせられてしまいます。

さて、加古川青年会議所では、8月17日、創立50周年記念事業として地球温暖化をテーマに、『エコばんDO！—播州からエコなコトはじめよう！—』を開催致しました。当日、本当に大勢の皆様にお越しいただくことができました。心から御礼申し上げます。有難うございます。

講演会の部では、さまざまな環境問題に精通されている田中優さんにご講演をしていただきました。環境に良いことをすることは、無理にがまんしたり、かえってお金がかかってしまったりするように思えてしまいます。しかし、実は、環境に良いことをしながら、家計にやさしいことってたくさんあるのですね。また、田中優さんが設立した未来バンクは、思い切って、世の中の矛盾に対し立ち上がり、その志に共感する人々が繋がっていき、全国各地で新しいシステムご構築されていくという、素晴らしい実例として、私たちに勇気と希望を与えていただいたように思います。

また、この地域で活動される環境団体の皆様に、子供たちを対象とした体験学習と、テーマブースを出していただきました。子供たちに喜んでいただけた

ことだけでも嬉しいことですが、地域で一生懸命活動される団体の皆様と将来を切り拓いていく子供たちが、ふれあい、色々なことを学びあえたことは、これからの地域の可能性を感じることができました。

いずれにしましても、人類の活動が、地球のキャパシティーをゆうに超えている現状において、地球温暖化の問題は、もはや国家益始めとした既存の枠組みだけで判断すべき時代でないことは確かです。私たちは方向を変えていかなければなりません。既得権益から脱しきれない社会のシステムに選挙等を通じ変革を求めていたり、市民で運動を広めムーブメントを起こしていたり、自ら立ち上がり新たなシステムを構築していたり、さまざまな方法があります。しかし、いずれにしても大切なことは、まず、現実を直視し、あきらめず、私たち人類が新たな方向へとシフトできることを信じ、一人ひとりが一步を踏み出していくことではないかと思えます。

私たち加古川青年会議所、そんな一步を、多くの皆様とともに踏み出していくことができるよう、これからも取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。